

7月19日告示  
県知事選挙

憲法を守りいかし、くらしに寄り添う県政に

# 「県民の会」が、金井忠一さんを擁立



5月15日、全会一致で金井忠一さんの擁立を決めた「県民の会」の団体・地域代表者会議

## 金井忠一さんはこんな人

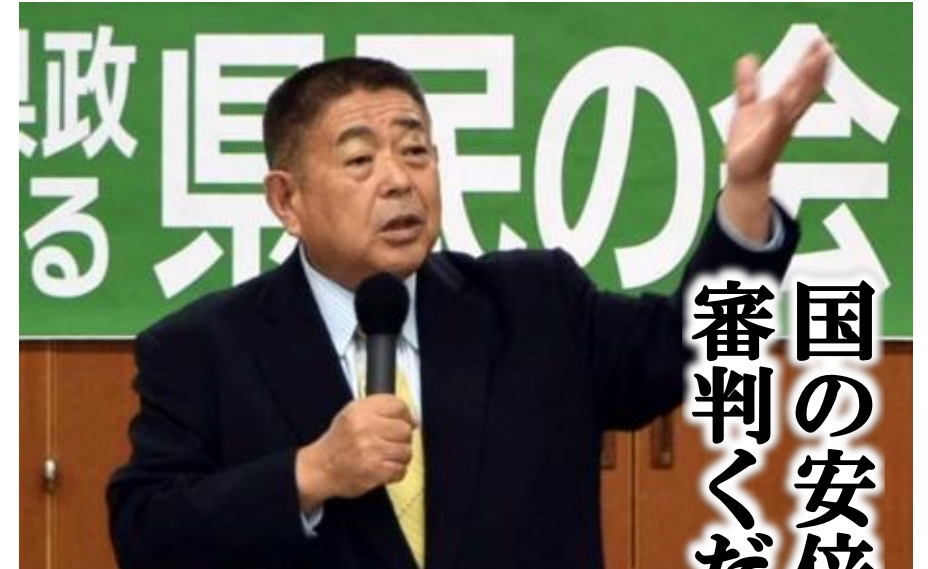
1950年上田市生まれ、67歳。上田東高校卒業後、上田市役所に25年間勤務。農政課、農業共済課、農業委員会事務局、収税課、清掃事務所・クリーンセンター業務係長をつとめ退職。上田市職員労働組合副執行委員長、上田市議会議員（5期）、上田市農業委員（3期）を歴任。その間、市議会厚生委員長、地域医療再生特別委員長、長野県後期高齢者医療広域連合議会議員（初代）などつとめる。上田市産院存続問題や地域医療充実などにとりくむ。市議引退後、2回上田市長選挙に立候補、ゴミ焼却場問題、学校給食問題などを争点化、市政刷新を訴える。現在、長野県生活と健康を守る会連合会会長、東信医療生協顧問をつとめ、全県の格差と貧困を解消する運動、生活相談などにとりくんでいます。

記者会見にのぞんだ金井忠一さんは、いまの阿部県政について、「国の悪政にも言う姿勢がみじんも見られないどころか、大北森林組合不正問題でも何も責任を取ろうとしていないことに怒りを禁じ得ない」「9条改憲をすすめ、生活保護費縮小など、格差と貧困をさらに広げる安倍政権から県民のくらしを守る防波堤への転換が必要」と強調。

①大型公共事業優先の県政から、県民の命とくらし優先の県政への転換、②暴走が続く国政に対して、県民のくらし・安全を守るためにノーと言える県政への転換、③県民不在の翼賛体制から、県民の声が届く県政への転換という「県民の会」のかかげる「3つの転換」は、「私の思いと一致する」「自らの経験を生かし、県民に寄り添う県民にやさしい県政実現に全力をあげたい」と熱い決意を表明しました。

## 金井忠一さんが「国の暴走政治から県民を守る防波堤に」と決意を語る

説明、県民本意の県政をめざすうえで重視する「3つの転換」について明らかにしました。そして、金井忠一さんについて、鮎沢聡共産党県委員長からは「市職員、市議などを長くつとめ、とくにくらし、福祉・医療など経験が豊かで、3つの転換をすすめるうえで最適の候補者」「国の悪政にキッパリものを言い、県民運動に携わった人で、何よりも県民の暮らしに寄り添う姿勢は申し分ない」と紹介しました。



明るい県政をつくる県民の会（略称「県民の会」）は、5月15日、総会にあたる「団体・地域代表者会議」を開催。全県の各団体・地域の代表が参加し、7月19日告示、8月5日投票でおこなわれる長野県知事選挙の予定候補として、県生活と健康を守る会連合会会長の金井忠一（かない・ちゅういち）さんを擁立することを決定、県知事選に全力でとりくむことを確認しました。

会議後、金井さんともに出馬表明の記者会見を行いました。

国の安倍暴走政治に  
審判くだす絶好のチャンス！